

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府教育センター附属高等学校
取り組む課題	C 授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上 ・ 授業アンケートと学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 ・ 大学教員や図書館司書などからのコンサルテーションの成果
計画名	<p>「探究図書館を創ろう！！ ～生徒がカリキュラムのオーナーとなり、 学びをデザインすることを支える学校図書をめざして～」</p>

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	<p>3 あくなき探究心の育成</p> <p>(1) 探究活動の充実とその成果の発信</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 教科横断型である探究ナビを本校教育活動の軸と位置付け、活用型の授業に取り組む。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 「社会人基礎力」の育成を意識した授業実践を行う。</p> <p>(2) 自ら学ぶ生徒の育成</p> <p style="padding-left: 20px;">ア 自ら学びに向かう力を育成し、授業以外での学習習慣を付けさせる。</p> <p style="padding-left: 20px;">イ 卒業生の進路未決定率を3%未満にする。</p>	
事業目標	<p>本校が創立以来先進的に取り組んで来た探究活動をさらに発展させ、生徒自らが個別最適な学びや協働的な学びをデザインする学習活動を展開する。主体的な探究活動を支援するような文献や論文に溢れ、また共創的な学習活動を展開できるディベートルームがあり、各授業での活用が可能な知識創造の場となる学校図書を作ることで、生徒の学びを深め、主体的に学びに向かっていると自己を肯定できる生徒の割合を増加させる。</p>	
取組みの概要	整備する 設備 ・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・ 探究活動を支える書籍 ・ 論文検索性 PC・ディスプレイ ・ 円卓 ・ シンキングツール
	前 年 度	<p>探究ナビⅠ・探究ナビⅡ・探究ナビⅢという総合的な探究の時間に変わる科目を各学年に2単位設定しており、1人1台端末を活用して情報を収集しながらグループまたは個人の課題探究を深めていく。</p>
	初 年 度	<p>探究ナビⅠにとどまらず教科教育の探究活動や生徒自身の学びのデザインにおいて、1人1台端末でのインターネット検索と文献調査を往還し、より確かなエビデンスやバックヤードから探究活動や教科教育における個別最適な学びや協働的な学びを確かにする。</p>
2 年 め	<p>探究ナビⅠ・探究ナビⅡにとどまらず教科教育の探究活動や生徒自身の学びのデザインにおいて、1人1台端末でのインターネット検索と文献調査を往還し、より確かなエビデンスやバックヤードから探究活動や教科教育における個別最適な学びや協働的な学びを確かにする。さらに、他者とのつながり方のデザインにも踏み込み、図書館は調べる場ではなく学びの場であるとして活用していく。</p>	

	3年め	<p>全ての教育活動において、1人1台端末でのインターネット検索と文献調査を往還し、より確かなエビデンスやバックヤードから探究活動や教科教育における個別最適な学びや協働的な学びを確かにする。さらに、オープンな学びの場としての図書館の位置づけを確立する。</p>
	取組みの 主担 ・実施者	<p>総務企画部・探究科教員（探究主担3名＋担任18名＋学年主任3名＋大阪府教育センター指導主事）・授業研究委員会</p>
成果の検証方法 と評価指標	初年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の来館者数を延べ400名以上に増加させる。 ・ 利用書籍の統計変化を探るとともに学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して自らの興味や関心を高めたり、探究活動を進めたりすることができた」（新設）肯定率60%以上にする。 ・ 大阪府教育センターフォーラム等での成果発表を行う。
	2年め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の来館者数を延べ500名以上に増加させる。 ・ 利用書籍の統計変化を探るとともに学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して自らの興味や関心を高めたり、探究活動を進めたりすることができた」肯定率70%以上にする。 ・ 他図書館との連携を報告する。 ・ 大阪府教育センターのフォーラム等での発表。
	3年め	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館の来館者数を延べ600名以上に増加させる。 ・ 利用書籍の統計変化を探るとともに学校教育自己診断（生徒）で、「図書館を利用して、自らの興味や関心を高めたり、探究活動を進めたりすることができた」肯定率80%以上にする。 ・ 他図書館との連携を報告する。 ・ 大阪府教育センターのフォーラム等で最終成果の発表。 ・ 府下の高校への実践共有、事例提供。